館報
おおくま

おもな内容

2面……新年のあいさつ
3面……PTAの活動・婦人学級
4面……分館活動、お知らせ
5面……家庭教育、民話、俳句
6面……青年・婦人・老人の集い
7面・8面……みんなの広場

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷

諏訪神楽

その昔、野上諏訪神社の神楽は春秋二回の例大祭に若者により奉納され、ひきもきらぬ参拝客から親しまれ、地域の人々の心に生き続けてきた。しかしそれも戦争、若者の応召、終戦、農村の荒廃など、時代の波には抗し難くいつしかその姿は消えて行った……。

最近、多くの部落民は、その復活と伝承を熱望し、このほど野上諏訪青年会の努力と、部落ぐるみの暖かい協力によって新しい神楽が諏訪神社に奉納され、末永く伝承されることとなった。

この神楽は、正月になると野上の家庭を訪れ、悪魔を払う。そして、一年間の無病息災と無事を祈念するものである。

＝写真は、諏訪神楽の練習に励む野上諏訪青年会員＝

新年のごあいさつ

昭和五十二年元旦

教育長　太田芳一郎

昭和五十二年の新春を町民の皆様方と共に寿ぎたいと存じます。昨年九月、吉田農夫雄教育長さんが辞任され、不肖私が後を継ぐことになりましたが、就任と同時に前教育委員会が打ち出している五十一年度事業の重点施策の内容について再点検いたしました。内容は真に遠大な構想の中にもこまごまとした配慮がみられまして、この事業推進には懸命に努力することを、お約束いたしました処ですが、ここに先ず旧年中ご支援いただきました町執行部、町議会、町民の皆様方に厚く御礼を申し上げる次第でございます。今年度は新委員によりまして、先に樹立いたしてあります教育五ヶ年計画等を、現在の教育行政、即ち急激に変化する社会情勢と町民各層の教育に対する要請の増大とをにらみ合せた大熊町教育委員会重点施策を策定中であります。

新委員一同強力な事業推進に努力することをお約束いたしたいと存じます。

○幼児教育

幼児の学び舎であり、遊び場である幼稚園舎の整備については、大野幼稚園が本年三月完成を目ざして新築中であり、熊町幼稚園につきましても、熊中分室に使用しました老朽校舎でありますので、早急に改築を図り幼児教育の万全を期してゆきたい。

○学校教育

熊町小学校が昨年度、県小学校教育研究会の体育研究指定校として、二ヶ年の研究実績発表をいたしましたが、大きな成果を挙げておりますので、両小学校の体力並びに学力の並行した進め方について、積極的にとりくんでいきたい。

中学校におきましても、体力増強研究校になっており、本年度はその成果も期待されますが、プール建設も昨年末完成したところであり、今後は教育機器等の整備により、最も関心事である教育の質的向上、即ち労力向上を推進してゆく方針である。

○社会教育（含社会体育）

一般に学校教育に頼り、家庭教育、社会教育はとり残される、といわれますが、当町の社会教育関係につきましては、館長を中心に職員一同が一丸となり、また、社教委員及び公民館運審委員の適切な指導助言と体育指導委員の活躍により各種事業に大きな実績を挙げておりますが、その実績にプラスされた教育内容を検討推進してゆきたい。特に地域住民の教育に対する要請が増大している現状にかんがみ、生涯教育の理念に基づいて、その一領域として最も大きな役割りを果している社会教育の推進方については、これらを促進援助するための行政基盤の見直しを検討してゆきたい。年頭に当り町当局、町議会、全町民の一丸となった姿によりまして、大熊町の将来を担う人づくりのために深いご理解と絶大なご支援を願いつつ所信の一端を申し述べまして新年のごあいさつといたします。

謹賀新年

教育委員長	松本幸一
社会教育委員長	愛川一
公民館運営審議会委員長	渡辺清
体育指導委員長	松本六郎
体育協会長	志賀秀正

委員一同　委員一同　委員一同　委員一同　委員一同

真心をこめて

大熊中PTA会長　佐藤祐禎

大熊中学校が実質統合して二年その間PTAの責任者として過ごし、最後の年をあと数ヶ月に残して反省することしきりの昨今です。

同じ町民でありながら、始めて会うことの多かった生徒達そして父兄。本来であれば永い年月を費してつくられた伝統と慣習の中で運営すればよいものを、我々はすべてを新しくつくらなければなりませんでした。いろいろなきまり、多くの知らない会員とのつき合いの中で、互いに信じ合えるものをどこに見い出して行くか。昨年初代会長としてその任についた時、いい知れぬ不安と自信とが交錯した複雑な気持でした。だから、今迄やってきた方法、手段は一応過去のものとしておき、新しい自分を意識しながら出発したものです。ただひとつ『まごころをこめて精一杯に』を信条に。幸いに多くの会員の方々のご協力を得ることができ、更に町当局の極めて深いご理解に支えられながら、郡下に冠たる学校施設と環境ができあがった訳であります。統合ということは大変な問題を抱えております。今までそうした経験のある学校も、生徒のいろいろな問題、すなわち素行、学業、体育それぞれの悩みを抱えて懸命の努力を重ねて現在立派なものになっている訳で、本校もそうした心配がない訳ではなく、先生方も真剣に考え、父兄も今後の重要課題として取上げております。そうして考える時、この二年間学校環境の充実とPTA組織の外枠つくりだけで終ってしまうのではないだろうか。

今後とも会員皆さまのご指導とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

見なおされる米飯給食

大小PTA会長　菅野祐一

一九七七年の新春を迎え、お喜びを申し上げます。

今年こそは皆様方にとって最良の年でありますよう、心からお祈り申し上げます。昨年中は、公私ともに格別のご指導、ご鞭撻をいただき、厚くお礼申し上げます。

特に、町長さんをはじめ、教育関係者並びに町民の皆様方に、学校教育または大野小学校PTA事業につきまして、特段のご配慮をいただき、心より敬意を表する次第であります。

おかげさまで年を増すごとに教育活動、PTA組織も充実されておりますことは、私にとって喜びにたえないところであります。

さて五十二年度の輝しい年頭にあたり、大野小学校PTA事業の基本的な考えの一端を述べてみたいと思います。

第一に会員相互の教養を高め大同団結を図り、現代社会の流れを良く見きわめ、我々組織の再点検の必要があると思います。PTA本来の性質を理解し、学校と社会そして家庭との緊密性をより高め教育は学校まかせ、と云う昔ながらの慣習から脱しなければまりません。更には、児童の健康と健全な心身を養う目的から、現在の学校給食を再検討する時に到達していると考えます。「健康な身体には、健全な心が宿る」と云われますが、成長盛りの子ども達にとって食べ物はもっとも大切な要素である事は勿論であります。最近全国的に学校給食が見直されており、本校PTAにも昨年度より米飯給食研究特別委員会が組織され、先進校の視察研修、本校父母・児童のアンケートの実施、その他諸々の研究を進めてまいりました。アンケートの結果は、米飯給食希望がなんと八十五パーセントを上まわり、特別委員会は勿論、全体役員会においても、実施にむけ全力投球している次第であります。環境整備問題についても関係各機関はもとより、会員各位のご協力とご理解を得、初期の目的達成のため前進する所存であります。

最後に、皆様方のご健康と限りない幸せをお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

学校と家庭

熊小PTA会長　田中和孝

新年おめでとうございます。

五十一年四月に熊小PTA会長に選任され、以来皆様方のご指導ご協力を受け、無事に現在まで過ごしてまいりました。あらためて御礼申し上げます。

〝教育は三歳から〟と、その重大さが叫ばれています。実際小学校においても、道徳教育を中心に、今後の生活指導が重要視されています。それに関連し、私はここで学校と家庭の連携のあり方について考えてみたいと思います。

PTA大会や指導者研究集会等においても、学校教育は勿論、家庭教育、校外指導、更に非行問題等々、PTAにとっては切実な問題が討議されている現状です。

まず、最小限に教育問題を考えるとき、私もそうであるが、往々にしてPTAの皆さんの学校行事への不参加が目立つのではないでしょうか。PTAの行事は、児童を中心に家庭と学校との連絡を密にし、話し合いの場を多くつくるのがねらいであります。

ある学校では、それらの解決策として、PTAの学校訪問の機会をとらえ、父兄と先生との接触する場を少しでも多く設けるためにソフトボール大会やバレーボール大会等の行事を多く取り入れるなどして、PTAの出席率を高めているということです。

最近の痛ましい事件に、要田中学校の「怖くて学校に行けない」と訴え、自殺したものがあり、中学生の顔がまざまざと思い出されます。「道徳」「道徳」と数多く聞かされる教育のこの世界に何故このような事件が、と腹立たしく思われます。私はこの事件を思う時、「学校と家庭との密なる連絡の重要性」を第一に、PTAの皆さんに呼びかけたいと思います。事あるごとに学校に出かけ先生と話をする。そして我が児の実態を知る。更に、それを家庭教育に取り入れる。これはなかなか大変なことと思います。しかし、どんどん進歩してゆく社会に生き、社会と一諸に進歩するひとりの児童を観るとき、父兄の皆さんは、普通以上の努力なしでは学校教育にそして満足する家庭教育に追いつくことはできないのではないでしょうか。私も今後、諸先生方やPTAの皆さんのご協力を得、一歩一歩努力前進いたしたいと考えております。五十二年におきましても今まで同様よろしくご指導ご支援の程お願い申し上げます。

自転車のりは正しく婦人学級で指導

婦人の交通安全普及事業の一環として、去る十二月十一日大熊町婦人学級において、自転車の安全教室を開催し、自転車の上手な乗り方、交通事故と損害賠償の責務等について勉強した。講師は、富岡警察署の伊藤巡査、交通指導員の鈴木賢三氏、交通安全協会の吉岡正氏にお願いし、実技指導と併せ交通安全に対する普及啓蒙をはかった。

実技では、自転車の走り方、左折、右折の仕方、信号機のある十字路の通り方等こまかく指導いただき、参加者たちはとまどいを見せながらも熱心に練習された。

特に、小中学生は法規通り立派にできるが、ご婦人には守られない方が多いので交通事故にあわないうちに正しい自転車の乗り方を身につけてほしいと話された。

話し合って家族で事故のない世界

分館活動

熊二区で定期学習
楽しい家庭づくりを目ざす

—講師の話しに開いる会員たち—

熊二区部落では、生活改善グループ（代表坂本美恵子さん）が中心となり、楽しい家庭と明るい部落づくりを目ざし、定期的な学習が行われている。去る十二月八日には小高町社会教育指導員の坂下誠先生を講師に招き、家族の人間関係について講話と話し合いが行われた。

次に講話に拾う嫁と姑の人間関係について紹介します。

●人間関係の基本

性格や生活環境の違った中で暮してきた者が、同一家庭に入り嫁と姑という立場で生活することはなかなか大変なことであり、大なり、小なりのトラブルがあると思う。とかく女性は、自己の欠点を知らぬために不幸を招いている例が多いようである。うまくゆけば大変良い家庭を築きあげることができる。男の目から見た女の特徴とは、

・独占欲がつよく、やきもちやきである。

・感情がつよく、起伏の差がはげしい。お天気や身体の生理によっても左右されることが多い。

・弱さがある。表面にはこれが女らしさとなって表れる。そして相手を受け入れることができる。それが積み重なり、裏面に本当の強さをもつような良い点もある。

●嫁と姑

現代の嫁さんは主張することがつよく、相手をいたわる心がたりない。老人の尊い人生経験を学び良きにせよ、悪しきにせよ、老人の歩んだ体験を理解してあげる心のゆとりをもつことが大切である。

婦人の任務は、命を生み、育てることであり、現代の命を物体化した考えをもつ若者がいることはなげかわしい。もっと若い方々には勉強していただき、嫁と姑が接し、暖かい心と楽しい家庭環境をつくってほしい。

●良き家庭のあり方

考えも性格も違う者同志であるから自分と同じ考えにはなれない。相手の立場も理解し、妥協する心づかいが大切である。

・息子はきぜんとして筋を通す役割を果すことが大切である。

・家族はぐるになってはいけない。

・家族の収入は、家族全員に還元する。自分だけ欲しい物を買わないで家族優先にし、自分は後からというような配慮が必要である。

・なかよくする。

な……何事も誠意で

か……顔に責任をもて

よ……良い所を見よ

く……くよくよするな

す……素早く

る……言葉に気をつける

▼ある家庭のほほえましい話

若い嫁さんが熱を出して寝ていたら、姑が頬をつけて熱を計ってやった。すると若い嫁さんの目から嬉し涙があふれた。

血圧の高い姑を風呂に入れるのに風呂場を湯気で暖め、タイルをお湯で流して暖め、湯には何回も手を入れて湯かげんを確め、お風呂へどうぞと言った。若い嫁さんの思いやりに心がうたれた。

若い嫁さん、姑さん、こころ奥深く理解し合うことが大切です。そして明るく楽しい家庭を築きましょう。

お知らせ

◆家庭教育学級（会場　保育所）
日時　一月二十日　十時三十分
内容　善悪の判断

◆高令者大学（会場大熊公民館）
日時　一月二十六日　十時
内容　現代生活と健康

◆スキー教室（会場栗子スキー場
日時　一月十六日（日帰り）
大熊公民館午前六時出発
参加申込は一月十日まで

◆コーラス教室
歌唱愛好者の強い要望により、コーラス教室を今月中に開講するべく但今準備中であります。

佐藤明子さん（野上）沢原祥子さん（大川原）渡部晶子さん（同）らが発起人となり、参加者を募っています。なお講師は交渉中であり適任者について心あたりのある方は上記の方々、または公民館にお知らせ下さい。講師が決り次第スタートいたします。

図書室あんない

この程、新刊図書をたくさん購入し、公民館の図書室に備えつけてあります。図書の一部を紹介しますが、子ども向きから成人向きまで誰でも利用できるよう配慮しました。お気軽にご利用下さい。

冬季間ですと図書室には暖房も入りますので、寒さ知らずに読書を楽しむことができます。

なお、開館は午前八時三十分からです。是非一度おいで下さい。

◎子ども向き図書

学研マンガひみつシリーズ。子ども伝記全集。母と子の名作文学全集。ひろすけ幼年童話文学全集岩波子どもの本

◎学生・成人向き図書

毎日が日曜日。愛すればこそ。女の食卓。橋のない川。にっぽん漂流。花の生涯。やさしくほめて厳しく叱る。母胎流転。PTAの新しい活動。世界の名作推理全集古典文学全集。日本現代文学全集その他

家庭教育

子どもへの愛情と教育

去る十二月七日、大熊中学校において、会員大勢の参加を得、講演（家庭教育学級）が行われた。

講師は小高町社会教育指導員の坂下先生で「これからの家庭教育」と題し約二時間にわたり講演され、大変好評を博した。

家庭教育の重要性が叫ばれている現在、きわめて意義ある内容でしたので、その要旨を紹介します。

家庭での子どもさんのしつけの一助としていただければ幸いです。

・家庭教育の基礎は夫婦円満であること。父と母がいつもけんかをしていれば、家庭が暗くなる。家庭が暗くなればおもしろくない。従って、非行に走りやすくなる。

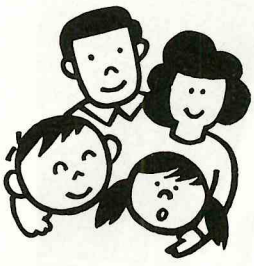
・子どもは母の分身である。従って母の愛情は絶対的なものである。父親は母親と同じようにただ可愛だけでなく、広い視野に立って、高いところから子どものしつけをしてゆく。

最近の社会で普通に見られる父親の母性化は断じて排除されなければならない。

・家庭でのしつけの第一条件は家事の手伝をさせることである。最近の家庭では、子どもに手伝をさせないために、働く喜びを知らないで大人になり、就職をしてしまう。そのために、ろくな仕事もできなくなる。これでは社会生活が成り立たない。

・子どもの勉強部屋は必ず出入りを自由にすること。監視するのではなく、偶にはお茶でも持って行き母親の美しい横顔を見せる。また非行防止のためには、勉強部屋を別棟に独立させないこと。

（大熊中教論　鈴木 照久）



民話

上の小屋・下の小屋

むかし。

苦麻川に沿った北がわ一帯の台地は見渡すかぎりの原野で、身を没する茅の生い茂るなかに、松やくぬぎの森があり、きつねやたぬきが多く住んでいました。

原野の上の方は野原の上手だというので野上の里と呼ばれ、下の下は下手だというので下の里とよぶようになりました。

いつの頃かこの野上の里に二人の長者があらわれました。彦兵衛長者は野上の上手に屋敷があったので里人は上の小屋と呼び、忠兵衛長者の家は下手にあったので下の小屋と呼んであがめていました。

ある日、彦兵衛長者と忠兵衛長者が二人で酒をのんでいましたがやがておたがいに金のじまんになりました。

「おれの方がお前より金持だ」

「いや、おれの方が多いぞ」といいつのるばかりでけりがつきません。とうとうどっちが多いかくらべようという事になりました。

あくる朝、彦兵衛長者はあり金を全部カマスにつめて、やっこらしょとせおって下の小屋に向って歩き出しました。忠兵衛長者も家じゅうのあり金をかますにつめこんで、上の小屋めがけて汗をふきふき急ぎました。

山桜が咲きほこり、小川のふちに黄金色のやまぶきの花が咲き、やぶのかげからうぐいすの声がきこえていました。

二人は道の途中でばったりと行きあいました。そしてたがいに無言のままカマスをおろすなり、ひたいをたれる汗をぬぐって、金を道ばたにあけ散らして、かんじょうしはじめました。

四ツ（十時）からはじめて、やがて如来寺のかねが九ツ（十二時）をつげる頃、たがいにかんじょうを終った二人はホッとためいきをついて、草むらの上に尻をおろしました。

上の小屋の持金が少し多いことがわかりました。

にわかにくもった空を、はやなきのほととぎすが血をはくような声で飛び去りました。小川のせせらぎが、さらさらと流れています。

しばらくの間ジッとみつめていた二人の長者は、やがてどちらからともなくいざりよって手を握りあってつぶやきました。「つまらないことだなあ……」

それからあと、二人の長者は、力をあわせて里の開発にうちこみました。

二人の出合ったところは里の真中だったので野上中組と呼ばれ野上の里開発の中心となり、本村というようになりました。

（民話苦麻川より）

俳句

鎌田 光子

初秋や泣く子抱きて星仰ぐ
盆踊り雨に流れてテレビ見む

結城 チヨ

庭に摘みえんげん二度味噌汁に
何となく心やすまる秋ざくら

佐久間 信子

満月の軒に出荷の梨を積む
風鈴やいつしか座右に老眼鏡

中山 安子

初産を待つ産室にチチ口なく
新わらの香りをきざみ牛の餌に

渡辺 博之

四方から池をせばめてあやめ咲く
朝仕事終えれば浅蜊汁匂ふ

菅野 ミヨ

草いきれ額の汗に鎌光る
はまゆうの香りほのかに雨の中

志賀 セツ

人を待つ時のむなしさ蠅叩
白百合に墨き揚羽のあらあらし

渡辺 政美

銀杏散る並の器量のバスガイド
綿虫や日暮せわしき小商ひ

高野 昭二

船の灯の二つ南へ除夜の鐘
病院の一灯に晦日そば運ぶ
初凪や海猫の島くろ〳〵と。

短歌、俳句等をつくられている方は、是非原稿を公民館にお寄せ下さい。先生の添削を受けることもできます。俳句会等への入会も案内いたします。

青年・婦人・老人が集う

大野・熊町双葉婦人会

住みよいふるさとづくりを考える

去る十二月十三日大野・熊町婦人会と双葉婦人会の共催で、同じ地域に住む婦人、青年、老人それに各関係者約九十人が参加し、朝の九時半より熱心に地域の学習課題に取りくみ、相互の協力と実践を誓い午後二時閉会した。

内容としては、第一分科会…青少年の育成と家庭づくりについて、高校中退の青年、中学生の自殺、母子家庭、勤労者家庭等の問題より意見が交わされ、子供の心理の研究、親の期待の過大、物わかりの良すぎる親等、もう一度反省してほしい。地域の思いやりの欠如等意見が出された。家庭づくりは、青少年育成には切ってもきれないもので、正しい筋を通した躾の基本をつくる場である。人間関係は、互の尊敬と理解よりなり、協力し合うこと。経営は無理、無駄、むらのない労働力の配分、時間等をくみ入れ、家庭経済は安定し汗を流して得る金のきれいさを身につけさせること。青年への期待としては個々の充実と共に自己の人生を大切にし、社会への参加者として連帯意識の高揚につとめてほしい。

—分科会の結果を全体会で発表する参加者—

第二分科会…冠婚葬祭、生活の簡素化、明るい選挙推進について、双葉町からは、新生活運動として結婚式の会費制、場所や衣裳、おひきもの等について発表あり、最初に行う者の種々の抵抗を乗越える勇気と行政上に立つものの協力により実施に踏みきることができた。その他葬式の花輪、法事、お盆の提ちんを金に代える等人間の弱さである虚栄心や競争心に負けないで無駄を省いてゆかねばならない。

正しい選挙推進については、公職選挙法により改正され大部金のかからない方向に向いている。政治は日常生活の基盤であるからよく考えて選ぶこと。候補者より選ぶ方がしっかりしなければならない。義理人情にかられず、誠実な人を選ぶ。いろんな集会に出て自分をみがき、社会をよくするのも私、悪くするのも私であることを忘れないこと。後援会や選挙事務所に顔を出さないこと、あちらこちらときめつける習慣が個人の自由を束縛する。お互いに考えなければならない。

第三分科会…環境美化について。原発と地域づくりについて…環境づくりは人間形成にはなくてはならない要素であるが、最近は日本人の美風が物質万能におきかえられすさんではいないか。

人の見えない所では立小便をしたり、他人の土地にゴミの袋をおいて行ったり、河川に物を捨てたり、学校教育、家庭教育、社会のグループ活動を通じ心の教育が必要。地域のゴミ処理に当っては、行政との協力で屑かごを配置するなど上手にしよう。原発については、安全性の確保として学習が必要であり、反対側の意見にも耳を傾けなければならない。また財政的に考え、将来の大熊町を考えて見なければ、原発に依存し過ぎ大熊町民は主体性がない様に見られる。人間関係の要望としては、互に溶け合い親しまれるよう、体育大会、ママサンバレー、PTA等を通じて互のふるさとづくりに企業側にも協力を要請し町民の繁栄に向って進まなければならないというような意見が出された。

学習発表会

初冬とは思えない暖かい日和に恵まれた十一月二十七日、会場いっぱいに父兄を迎え学習発表会が開かれました。

練習時間が不足し、そのできばえが心配されましたが、児童の創造的表現力、鑑賞力を伸ばし、情操を陶冶し、豊かな人間性を養うという目標のもとに、全児童が参加し、盛大に行われました。

父兄は、幼稚園児や低学年のかわいらしい演技に微笑み、三・四年生の熱演に水を打ったように静まりかえっていました。そしてまた舞台いっぱいにひろがるすばらしいおどりやダンスに拍手をおくり、高学年の美しく流れる合唱合奏のメロディにじっと耳を傾けていました。

このすばらしい数々の演技に最後の閉会のことばまで、帰ることも忘れて熱心に見ていてくださいました。

来年度は、さらにすばらしい学習発表会になることでしょう。

大小教諭　田野入重徳

みんなのひろば

父親の存在

新年を迎え覚悟を新たにし、何事にも前進させるにはよい機会である。そして実行に移したならどんなにか充実されることだろう。

過日、親しい友が集まり、お茶のみ話にこんなことが私の心を打った。それはどこの家庭でもやっているごくあたりまえのことなのだが……。

ある友だちの家庭

うちでは嫁さんをもらい孫も一人いるが、たいていのことは嫁さんにまかせているそうで、努めに出てはいないが、朝は忙しいし、日中の仕事にも余裕ができるので家族みんなが手分けして働く。

嫁さん―お炊事、息子さん―外まわりの掃きそうじ、両親の私たち―家の中のそうじと一人は孫の世話、これはほんの朝の様子の一例であるが、炊事に関しては、財布をわたし一切まかせている。たまの日曜には遊びにも出してやるそうである。その友の言うには、うちでは主人が何かと心の支えになってくれ、仕事も手伝ってくれ実際の一家のリードをとってくれているので円満だと。

ある友だちの家庭

うちでは娘三人いるが、甘やかされて育ったのか気がつかない時もあり、母親ばかりが苦労することもあるとか。ある時主人が見かねて「女の子はやがて家庭に入り多かれ少なかれ苦労をしなくてはならない。かあさんの立場にもなって、自分から手伝い、いたわってやりなさい」と。この父親の一言がどんなにか娘たちにこたえたか、この時の娘たちの態度でわかった。友だちも日頃悩んでいたことなのでこんなに嬉しく感じたことはなかったと。

今、朝のテレビ小説「火の国」で植木職をやっている父親像も、実にすばらしくたくましく思う。思いやりのある反面、皆の意見をとり入れ、こういうふうだからこうしようとはっきり決断をおろす。ドラマであるからと片づけてしまいたくない。

どこの家でも、その家なりのりっぱな家風があり人間関係があろうが、話し合いの上に立ち、共通の理解をもち、より前進して暮していきたいものである。お正月のごちそうを食べながら一ぱいのお酒を飲みながら、信頼といつくしみを育て、子ども達を正しく伸ばすためには、是非とも父親の協力がほしい。お正月はまたとないチャンスである。

（大川原　一主婦）

自転車健康法

冷害では、と心配された秋の取り入れも終わり、今は年の瀬を迎える準備で忙しい毎日です。

吐く息も白く、寒々としている朝早く、トレーニングのためランニングシャツ一枚で走り去る人、また、日中健康のためにと、岩船と夫沢旧文校間の往復を歩き通す人。私はこの方々の熱心な姿を見た時、自転車愛用も健康法のひとつではないかと思いつきました。私はいつも孫を背に、自転車に乗り、隣り近所へは勿論のこと南は富岡、北は浪江まで出かけます。

ある先輩は「今までは、どこに行くにも、疲れず便利な車に乗せてもらっていたが、何んとなく足が弱る様で心配になり、今は自転車を利用している」とのことです。

私も何年か前、バイクに乗っていたが、少々病弱となり、しばらくはバイクにも自転車にも乗れなくなりました。その後、自転車を愛用する様になったのは、七年前からで、今では出歩きする際は私の足同然になりました。

先日、浪江に行った時のこと、買い物をすませ、いざ帰ろうとしたら、チェーンがはずれてしまい町はずれまで押してきてなおしてもらいました。またある時は、双葉でパンクをし、なおしたこともあります。自軒車も長い間乗っていると、いろいろなことがあります。しかし、何んといっても、手軽でしかも経済的です。車やバイクのように事故の心配も余りありません。

みなさんも、この一石二鳥の利となる自転車を見直して下さい。そして、おおいに利用し、より以上の健康維持に役立てましょう。

（夫沢　永井善子）

――親は子の鏡――

今の子どものしつけはできていないとよく聞く。しつけは一体誰がするのか、親がするのか、学校でするのか。私は両方でするものと考えるが、親の受持つ方が多いのではないかと考える。

私は今七十歳の老人になって、自分を支えているものは何かを考えてみると、親の言動が中心になっているように思えてならない。私はよく小まめに動くと人にいわれる。父も母もそうであった。小さい時から私はよく動いた。今でも動いている。恐らく死ぬまで動くだろう。それに対して私は何の低抗もなく、辛いとも思わない。これは親が自覚しないしつけのおかげと今感謝している。

一方私の父親は時々仕事を九分九厘までやりながら残すくせがあった。私も父の子である。はじめは元気よくはじめるがもう少しというところでへたばる。しかしこれでは仕事があとに残ってしまう。いつからか、父のできなかった所をして不幸をつぐなうことを考えるようになった。しかしこの事は一仕事毎に意識する。「父はそうだった。おれはそうではいけない」と。動くことは一生を通じて意識しないのに、仕上げることは毎回意識する。これは一体どうしてだろう。

私は家庭のしつけは毎日親のやっていることであって、自分のやりもしないことを子どもに望んでも大した効果はないと思う。

（七十齢翁）

新年おめでとうございます

今年もご指導、ご協力賜りますようお願い申し上げます

大熊町公民館長　高野　昭二
〃　職員　島　晃重
〃　渡辺　悦子
〃　酒井　正直
〃　飯畑ゆき子
大熊町社会教育指導員　木幡　キサ

思いつくままに

ある春の宵教育テレビで湯川秀樹を囲んで「メルヘンの世界」という番組を見た。静かな雰囲気で語る一語一語がわかり易くつい魅きつけられて時のたつのを忘れて見た。その中から感じた事の一部を記してみる。湯川秀樹の名は誰しもノーベル賞受賞者として世界的に有名な人であることはわかっているが以外にも博士には童話愛好家であり作家としての一面があるのを知る人は少ないと思う。博士はいう。童話作家は世界の童話作家の生家を訪ね、どんな環境で育ちどんな境偶の中であの童話ができたのか等、想像すると夢は広がるばかりで、至上の幸福感で満ち溢れる。また幸せとはあいまいな言葉で他人から見れば苦労と思われる事でも自分にとっては又とない幸せである事もあるだろう。命がけで山登りをする人、ずぶぬれになって釣をする人、土と肥料でどろだらけになって花を育てる人、皆目的を達した時、他人の知らない幸せを味わっている。ある映画監督の句「一筋に生きて幸せ寒椿」というのを見てなる程と思う。医師は患者の全快を喜び教師は教え子に声かけられた時生きがいを感じ幸せを味わう。人それぞれに幸せをかみしめられるのが何よりで、苦しみの中にもそれを認識できるだけのゆとりを持てばまた起き上がる希望が湧くものだ。「心の泉湧きて溢れつ果つることなし」これは湯川博士の名句だ。子どもの幸福とは両親がありいろりがあればそれで充分であるがとかく人は無いものねだりをするんでねえと博士は結ばれた。

私は二人姉妹の妹で育ち楽天家だった。父はよく私達の遊び仲間になってくれて、おはじきお手玉カルタ取り等熱戦となり楽しかった。祖母と母は笑ってみていた。父は言葉を大切にする人で怒号や荒々しい声をきいたことがない。祖母からの言い伝いだと云って、「親孝行は親から」とよくきかされた。また親にしてもらって良かったと思う事は自分の子どもにもしてやれ、いやな事は子にもするな。老人は生き字引きであり白髪は栄光の冠だ人生を活歩してきた印だ。これらの言葉をかみしめて私共も家伝として残したい。

（夫沢　佐久間　信　子）

諏訪青年会 おとしよりを招待

野上諏訪青年会（会長渡部幸悦）では十二月五日、老人クラブ「諏訪の会（会長渡部網治）」の会員二十余名を下野上北向の生活改善センターに招待、師走のあわただしさも忘れて楽しい一日を過した。

当日は青年会の役員の奥様方十名による手料理でテーブルは賑わい珍らしい料理の品々に舌鼓をうつなど酔うほどになつかしい唄の数々も披露された。

恰度この日、かねてから計画されていた諏訪の会神楽の師子頭もできてその披露も併せて行われ神楽舞の後世への継承もこれで約束されたと古老も青年も大喜びであった。

飛鳥の地

一生に二度三度奈良を訪れる人は少くない。日本最古の都としてみるものは非常に多い。しかし余り観光客の多い奈良よりも、もっと古い奈良をみたいものと思い、私は飛鳥の地を選んでみた。

飛鳥は大和三山をはじめ、小丘の多い盆地である。しかし観光地として俗化していないのが何よりもうれしいことであった。

最初に飛鳥寺。蘇我氏の氏寺。ここで日本最古の大仏を拝んだ。顔は長く、大きくゴツゴツした手、これがこの時代の大和民族農民の姿そのままでなかったかと感じられた。

橘寺。聖徳太子誕生の地。馬の銅像が印象的であった。この馬にのってイカルガの法隆寺に通われたとのこと。行程十五キロであるが、イカルガは広い平野である。

石舞台、鬼のマナイタ。鬼のセッケン等々石文化が多い。建物が朽ち、土砂がくずれ、或はくずされて残ったのがこの石である。皆古墳の石であるが、何キロという遠い所からどうして運んできたのか、どうして丘の上にあげたのか驚くばかりである。この辺一帯は御陵の多い所である。

高松塚古墳、こんな所にと思う丘の麓にある。昭和四十七年一農夫によって発見され、多くの論議をかもしだした壁画のある古墳である。内部には入れなかったが、資料館には実物大の模型、模写を見ることができた。いつの時代か盗掘にあって財宝はなくなったとのことである。

橿原神宮、飛鳥にある唯一の近代的建築、神武天皇をお祭りする神社で、壮大な社殿、広大な神域ゆきとどいた手入れ、宮内省管理になっている。

以上約半日の行程であったが、まだまだ研修の場所が少くなかった。大方の処は見たという方々、古代史研究に興味ある人に飛鳥の地をおすすめしたい。（松本）

編集後記

◆正月といえば凧あげ、羽根つきこままわしなど子供の遊びが一つの風物詩でもあった。それがいまでは滅多に見られなくなり淋しいかぎりである。そういったなかで野上諏訪の会に神楽が新調され復活したことはまことに嬉しい。

面とればおさな顔なり里神楽など神楽を詠んだ句もたくさんある

◆新聞も雑誌も元旦号はほとんど新年の挨拶で埋めつくされている館報もご多聞にもれずたいへんな方から原稿をお寄せいただきました、にもかかわらず紙面のつごうから掲載できなかったことをお詫びいたします。関係機関の代表の方々のご挨拶は年度の始めにいただく予定です。ご了承下さい。

◆福寿草の花がこっそり咲いている庭さきに喜々として子供らは遊んでいる。その中には都会の子供もまじっている。公害に明けくれる都会に育つこの子ども達の肉体を公害がむしばまないよう祈らずにはいられない。そして町や村に公害の波がうち寄せてこないようにとも。

◆館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で

1主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

2政治的な色彩をもたないもの、個人非難に属する抽象的でないもので常に建設的なもの。